



# 読谷村

Yomitan Village

## 元気が元気の



がれてきたポーポーを守り、読谷をポーポーの里にしたい」と笑顔で語ってくれました。

村漁協の前田晃さんは、商工会やコープおきなわと「魚のマース煮」や「もずく丼の素」を共同開発しています。「売る側と買う側が一緒に商品開発をすることで、消費者との意識のズレを縮められる」と成功の秘訣を語ります。「読谷漁協の定置網で新鮮な魚が手に入る読谷村ならではの商品化で、地域の人が喜ぶものを作りたい」と、らっきょうかまぼこを開発したかぎぜん寿味屋の新川高規さんは話します。



での気出 想井人み 発井の生 新「素」商品した



古いものも新しいものも 読谷を輝かせる魅力

読谷村では新商品だけではなく、伝統工芸にも力を入れており、伝統工

## 知恵を出し合い、地域資源で読谷を元気に！ 知産地笑“が活性化のキーワード！”

村内外から注目が集まる 「読谷産野菜スイーツ」

世界遺産の座喜味城跡や残波岬などの絶景で知られる読谷村は、紅芋や冬瓜、さとうきびを中心とする農業と県内最大の定置網による漁業が盛んな地域です。現在、村では商工会と役場がそれぞれ地元企業や漁協、農協と共同で「知産地笑」を合言葉に特産品開発を進めています（「知産地笑」とは、住民が「知」恵を出し合い、商品を生み出すことで、「地」元が盛り上がり、「笑」顔が満ちあふれた地域になるとの思いが込められています）。



読谷村役場建設部商工観光課・山内嘉親係長(右) 読谷村商工会・西平朝吉事務局長(左)

特産品開発の一つが野菜スイーツづくり。昭和六十一年の紅芋による特産品開発が始まりました。村商工会事務局長の西平朝吉さんは「地域活性化を狙った商品開発を村内企業に呼びかけて誕生したのが、全国的に有名になった『紅芋タルト』。平成十九年度から、芋づる式に特産品を開発していくとする『読谷まるごとブランド・イモづるプロジェクト』も動き出しています」と話します。

また、村商工観光課の山内嘉親さんは、商工・企業立地推進を行う中で農工商連携の新商品開発を進めています。海産物を使った商品開発や読谷村で収穫される野菜のスイーツ、冬瓜を使ったカレーなどを手がけています。

互いに知恵を出し、付加価値の高い商品を開発

「地元野菜を使っているのが生産者も喜んでくれます」とうれしそうに話すのは、「とうがんパイ」を製造する洋菓子店ミッシェルの比嘉満さん。また、冬瓜の形をした独特なパッケージをデザインした上地みゆきさんは、自身でも地元のかね芋を使った野菜スイーツ「あかね

長、又吉弘子副理事長は、「伝統を継承しつつ、新しい花織の魅力を見せたい」と意欲的です。

「独特の風土や地域性を持つこの地に生まれ育ったことが誇り」と胸を張る山内さんは、西平さんとともに「行政、農協、漁協、商工会が互いに協力的」「役場か商工会のどちらかから先行している事業は他方が支える」と読谷の優れた連携ぶりをアピール。「読谷のために」という多くの地域愛が村の元気を支えています。

「読谷村に学ぶ！」 元気がプロジェクトの開発ヒント 自然豊かなのどかな農村のイメージを守る 行政、農協、漁協、商工会の理想的な連携 島国根性」と呼ばれる地域の団結力がパワーの源



新たな魅力を見せる読谷山花織



13連房の共同登り窯



読谷村役場 建設経済部商工観光課 ☎098-982-9216 URL <http://www.yomitan.jp/> 読谷村商工会 ☎098-956-4011 URL <http://www.yomitan.or.jp/>

## 編集後記

先日初めてスノボに挑戦しました。自宅でWiiを使ったイメージトレーニングをし、自信満々に現地入り。ところがいざ滑ってみると七転八倒。なかなか上手く滑れません。さっそうと滑る子どもたちを尻目にジタバタ。おかげで翌日は今まで経験したことのない全身筋肉痛。南国育ちの私には不向きなスポーツだったようです。(momo)

ある日、娘が「パパ、みんなでコレやろうよ♪」とひよいと差し出してきたのが「沖縄おもしろカルタ」。早速、家族でやってみると、「れんしゅうでーじでした」「よくみたらまるばいですね」など、どこからツッコんでいいのかわからないシュールなカルタでした。やった後のゆるい脱力感がいい感じです。責任は持ちませんが、個人的にはオススメです。(tako)



アンケート 「美ら島沖縄」のご感想をお聞かせください。 パソコンはこちら <http://www.pref.okinawa.jp/churahome/>

沖縄県広報誌 平成22年2月1日発行第34巻2号通巻413号 美ら島沖縄

企画・編集・発行 沖縄県知事公室広報課 〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2 TEL:098-866-2020 ●表紙 写真・島袋常貴 / 伝統技術を継承しながら風土に合った生活の器を追求(読谷村)



特産品を使った地域伝統のお菓子「楚辺ポーポー」



読谷村のあかね芋そのものの甘みを生かした「あかねロール」

冬瓜をイメージしたパッケージがかわいいうがんパイ(上)、開発中の「とうがんカレー」